

平成 16 (2004) 年 4 月 30 日

日本英学史学会 広島支部

ニューズレター

No.38

平成 16 年度 広島支部総会 及び 第 1 回(通算 50 回)支部例会のご案内

拝啓

新緑の候、会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より当支部の発展のために暖かいご支援とご協力をいただき心から感謝申し上げます。

さて、平成 16 年度第 1 回(通算第 50 回)の広島支部研究例会を下記の要領で開催いたします。今回は、広島大学教育学部を会場としてお借りすることができました。会場校、関係の会員の皆様に厚くお礼申し上げます。今回は広島支部通算第 50 回の記念例会となります。広島支部顧問でいらっしゃる五十嵐二郎先生の特別講演、そして歴代の支部長を務められた顧問(相談役)4名の先生方、定宗一宏先生、妹尾啓司先生、寺田芳徳先生、松村幹男先生によるシンポジウムが行われます。これまでの支部の歩みを振り返り、これからの英学史研究を展望する会となればと願っております。公務などでご多忙の中とは存じますが、会員の皆様にはこの機会にご参集いただきますよう、ご案内申し上げます。

末筆ながら、会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

敬具

日本英学史学会広島支部事務局

記

日時：平成 16 年 5 月 29 日(土)午後 1 時より(12 時より受付開始)

場所：広島大学教育学部(東広島市鏡山 1-1-1 0824-22-7111(代)) 講義棟 1 階 L - 107 教室

- | | |
|-------------|----------------------------------|
| 12:00- | 受付 |
| 13:00-13:30 | 支部総会 |
| 13:40-13:50 | 支部例会開会行事 |
| | 開会挨拶 支部長 小篠 敏明(広島大学) |
| 13:50-14:50 | 記念講演「英語に最敬礼の旅」 |
| | 講師 五十嵐二郎(広島文教女子大学) |
| | 司会 小篠 敏明(広島大学) |
| 15:00-16:45 | シンポジウム「広島支部の歩みを振り返って これからの展望しつつ」 |
| | パネリスト 定宗 一宏(広島支部顧問) |
| | 妹尾 啓司(広島支部顧問) |
| | 寺田 芳徳(広島支部顧問) |
| | 松村 幹男(広島支部顧問) |
| | 司会 竹中 龍範(香川大学) |
| 16:45-17:00 | 閉会行事 |
| | 閉会挨拶 副支部長 田中 正道(広島大学) |
| 18:00-20:00 | 懇親会 |
| | (JR西条駅近くの会場にて。会費 4,000 円程度) |

- ・若手研究者の育成、および会への勧誘：例えば卒業論文、修士論文等の指導を通じて、大学生・大学院生へ「英学史」を浸透させる。
- ・ニュースレターを活用した広報活動：（研究論考中心の）紀要『英学史論叢』とは異なった情報発信媒体として、各自の研究紹介や共同研究の呼びかけなど、積極的に活用する。
- ・歴史関係の研究団体への働きかけを活発に行う。
- ・マスコミやホームページの活用を図る。

2. 平成16年度の活動計画

- (1) 支部紀要『英学史論叢』第7号（通巻27号）の発行（5月発行予定）
- (2) 例会および役員会の開催
 - ・平成16年度の研究例会は、5月（広島地区）と12月（他の地区、例えば四国・高知など）で開催する。
 - ・役員会は5月と12月の例会開催時、および年度末（3月）に開催する。
 - ・ニュースレターは年4回の発行。（4月 第1回例会案内、7月 第1回例会報告、10月 第2回例会案内、1月 第2回例会報告）

(3) 電子メールの活用

- ・名簿登録確認用紙回収分のうち、半数以上の会員がメールアドレスを所持している。迅速かつ安価な連絡方法として、メールによるニュースレター配信について検討を進める。

(4) 勉強会の開催

- ・若手会員の啓蒙、研究の活性化を目指す。
- ・気軽に参加できる場として出来る所から始める。
- ・ベテラン会員による支援や一般開放などを検討する。

なお次回の役員会は、5月29日（土）の研究例会当日、午前10時より12時まで、広島大学教育学部で開催されます。

『英学史論叢』第7号について

4月10日（土）に紀要編集委員会を開催いたしました。厳正なる査読ならびに審議を経て、『英学史論叢』第7号へ4本の研究論考を掲載することとなりました。5月末に発行予定です。

<<日本英学史学会・本部および他支部の動き>>

日本英学史学会報 No.103 号が発行されました（2004年5月1日、10ページ）。内容は、[史に聴けば] (5) 「横浜の過去は甦るか」(小林功芳)、[英学史散策] 「ラフカディオ・ハーン没後100年に沸く」(速川和男)、「日露戦争とイギリス観戦武官」(安岡昭男) ほか。

日本英学史学会は今年、創立40周年を迎えます。記念の全国大会は10月30日（土）～11月1日（月）、早稲田大学国際会議場（東京都新宿区西早稲田）を会場として行われます。プログラムの概要は次の通りです。

第1日（10月30日・土）13:30 開会

- ・シンポジウム「東京時代のラフカディオ・ハーン」
- ・特別講演
- ・懇親会（大隈会館を予定）

第2日（10月31日・日）

- ・研究発表（午前・午後）

第3日（11月1日・月）

- ・英学・洋学資料展（仮題）（早稲田大学図書館）

お問い合わせは支部事務局まで。

日本英学史学会（本部）のホームページが開設されました。これから様々な「英学史情報」が掲載される予定です。お楽しみに。

<http://www.tokyo-kasei.ac.jp/~shinoda/eigakushi/>

東日本支部の紀要『東日本英学史研究』第3号が発行されました（2004年3月1日、106ページ）。内容は、[論文・研究報告] 「もうひとりのイザベラ

明治40年来日のイザベラ・クリスティー」(宮崎路子)、「翻訳者としての Glenn W. Shaw」(速川和男) ほか4編、[地方の英学] 「富山の英学 - ロンドンの C. L. プラウネル」(高成玲子) ほか2編、[会員エッセイ] 「英学史学者「発生」の目論見」(塩崎智)、「英学史研究の対象としての陸軍」(江利川春雄) ほか4編、[書評] 「松野良寅『英学史の周辺 雑学の小径』」(佐々木満子) ほか2編、など。

北陸支部の紀要『北陸英学史研究』第9輯が発行されました（2004年3月31日、38ページ）。内容は、「グリフィスのスイス物語」(山下英一)、「C. L. プラウネル著『日本の心』 - 23章「取引のこと」」(高成玲子)、「日本英学史学会の四半世紀 - 人の縁に恵まれて」(遠藤智夫)、「ジョン・W・ダワー氏と金沢」(村田淳)。

広島支部事務局からのお願い

例会の出欠確認について

5月29日(土)の研究例会および懇親会の出欠につきまして、5月15日(土)までにメール(もしくは同封の用紙にてファックスまたは郵送)にてご回答くださいますようお願いいたします。役員の皆様は、例会当日午前の役員会のご出欠も合わせてお知らせください。

第50回の記念例会で皆様とお会いできますことを楽しみにしております。なお、非会員の方も参加費無料ですので、皆様お誘い合わせの上ふってご参加くださいますようお願い申し上げます。

会費納入のお願い

同封の振込み用紙(郵便振替)により、平成16年度分の年会費3,000円をご納入くださいますようよろしくお願い申し上げます。なお、誠に恐れ入りますが、下記の振込先口座番号、加入者名称を用紙にご記入ください。(昨年度未納の方は2年分お振込みくださいますようお願い申し上げます。)

口座番号	01360-9-43877
加入者名称	日本英学史学会広島支部

<<広島英学史の周辺(4)>>

本支部理事の風呂鞆先生より、次の通りラフカディオ・ハーンの会のご紹介を頂きました。

「毎月一回(原則として第一土曜日)比治山大学にて、「ラフカディオ・ハーンの会」を開催しています。どんなに自由に参加できます。資料も配布していますが、無料です。興味有る人があれば、いつでも歓迎します。」ホームページも大変充実しています。ぜひ一度ご覧ください。

<http://home.att.ne.jp/sea/reiko/hearn.htm>

ニューズレターNo.37でご紹介した能海寛研究会の岡崎秀紀先生より、研究会機関紙『石峰』第9号(2003年12月15日発行、116ページ)をお送り頂きました。「能海寛の英語学習と発信の経歴について」と題する岡崎氏の論文が掲載されています。島根県における明治の英語教育、能海が学んだ広島・進徳教校、京都・普通教校、東京・英語夜学会、慶応義塾などの教育課程や教授法、さらに彼が英語で残した数々の記録を綿密に検討し、能海の英語習得歴を明らかにしようとした論考です。そのほか、登山家ウェストンと能海が慶応義塾で出会ったとする岡崎氏の主張に疑問を呈する川村宏氏の論考と、それに答える岡崎氏の別論文も掲載され、読み応えのある「誌上論争」となっています。

「英学の気(け)」のある新書の紹介。竹田篤司『明治人の教養』(文春新書、2002)、数々の明治の「教養人」が登場する本書には、福原麟太郎(福山出身)も紹介されています。筆者は「傍系の高等師範出身で、高等学校も帝国大学も無縁だった」福原のキャリアを「地味」と形容しつつ、「文理大・教育大の英文科を東大英文科に勝るとも劣らないものとするのに貢献した」と述べた上で、過去と現在との断絶という文脈の中、福原のエッセイに盛られた「ことばのひびき」について論じています。

沖森卓也(編)『五十音引き漢和辞典』(三省堂、2004年)、訳語史を知る上で有益な注記や出典情報が豊富です。例えば「現実」は『哲学字彙』(1881)に英語 actuality の訳語として載る、「充電」は『電気訳語集』(1893)に英語 charge の用例 electric charge の訳語として載る、「機関」は福沢諭吉『西洋事情』(1866-70)に英語 engine の意としてある、また『英和対訳袖珍辞書』(1862)に organ の訳語の一つとして載るなど。(広島の友人が漢字音を担当したのでこの欄に・・・)

佐伯修『外国人が見た日本の一世紀』(新書y(洋泉社)、2003)、1900(明治33)年から2000(平成12)年まで、一年に一人ずつ、合計101人の外国人による「日本言説」を年代順に並べたもの。「急速に変化しつつある日本の変化は美しいものではない」と嘆くラフカディオ・ハーン(1902年)上でも紹介した英国の宣教師で登山家のウェストン(1918年)など、英学史にゆかりの人々が随所に登場します。

今年度第1回の研究例会は広島支部通算第50回となる記念の例会。豪華なプログラムです。お見逃しなく。(馬)

日本英学史学会広島支部ニューズレター No.38

2004年4月30日発行

発行 日本英学史学会広島支部(代表 小篠敏明)
事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町562

広島県立大学経営学部英語研究室内(馬本 勉)

電話&FAX: (0824) 74-1725 (馬本研究室直通)

e-mail: umamoto@bus.hiroshima-pu.ac.jp

日本英学史学会広島支部ホームページ

<http://www.hiroshima-pu.ac.jp/~umamoto/eigaku/>
